



第5回

越前一向一揆 三室山城

(福井県勝山市遅羽町傍崎)

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は前回の野津又城と同じく勝山市にある三室山城を紹介し、越前朝倉氏の家臣であった一向一揆の指導者嶋田将監正房の物見砦であったと伝えられます。三室山(182.5m)から九頭竜川対岸の北方に位置する平泉寺の動向をつぶさに監視して、北西方に築かれた村岡山城や野津又城などの味方に火急の時を知らせる拠点であったと考えられます。

天正元年(1573)8月、織田信長に寝返って本家の朝倉義景を滅亡に追いやった朝倉景鏡は大野郡司であった誼で平泉寺に身を寄せました。翌2年2月28日、越前一向一揆は檀ノ城を前線拠点として景鏡を匿う平泉寺を攻めましたが敗北しました。同年4月14日、南袋(大野)、北袋(勝山)、七山家(小原・木根橋・谷・合・六呂師・杉山・中野俣)の一向一揆が合議してその日の夜に村岡山に城を築き始めると、翌朝そのことに気付いた平泉寺勢が攻め寄せました。一揆勢はその隙を突いて本覚寺が率いた別働隊が直接平泉寺を攻めて焼亡させ、景鏡は討死しました。

三室山は比高が50mしかなく、山麓から山頂までは5分程でたどり着ける気軽さでありながら、山頂部からは勝山盆地が広く見渡せ、物見として絶好の立地です。主郭と考えられる平坦地は狭く、西側斜面に畝状空堀群が見られるものの主郭には土塁や虎口が残っていないことから、平泉寺の動向を探る目的のみで少人数が短期間在城していたと考えられます。歴史を踏まえた三室山城の使用期間は、朝倉氏が滅亡した天正元年8月から翌2年春の間に築城され、平泉寺が焼亡した同年のうちには廃城になるというわずか一年ほどであったと考えています。

現在、三室山の南麓には春日神社が鎮座しています。古くから「神奈備の三室の山」と呼ばれ、南斜面から南麓にかけて神が降臨する磐座とされる巨石がいくつも残されています。それ故に古くは神々の居所である「御室」山と書かれることが多かったようです。さらに、神社境内に隣接して縄文時代の配列遺構や竪穴式住居跡が発見された三室遺跡(福井県指定史跡)があり、縄文時代から戦国時代までの史跡を探訪できる歴史空間になっています。私が訪問した日は三室山一帯が紅葉し、澄んだ青空とのコントラストが素晴らしかったです。ハイキング気分で立ち寄れる史跡としておすすめします。

参考資料

「越前中世城郭図面集Ⅰ 越前北部編」、現地案内板 他



三室山山頂部の主郭



三室山から北側の平泉寺を見る



北西方に村岡山城、野津又城が見える